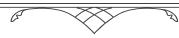




コドモとオトナのアイダ



For adult only

mechi

先程まで不審感を隠さなかつた声が、急に『わかりました』と義務的になつた。

『……それでは、直近ですと今週末の金曜日、16時に予約ができますが——』

『そこでお願ひします』

『わかりました、担当はマイルズ医師です、当日15時30分までに総合受付を済ませて、45分までに婦人科の窓口に診察券をお出しください』

『わかりました、ありがとうございます』

『では、失礼いたします』

『では』と答える前に、通話は切れていた。

スマホを放つて、腰掛けているベッドにそのまま仰向けに倒れた。

僕を怪しむ女性の口ぶりを思い出すと泣きたくなつて、思わず

「クソ」と毒づいていた。
詰まる喉から、なんとか言葉を絞り出した。

『どこからか、紹介状はありますか？』

* * *

『……ありません』

『失礼ですが、婦人科を『希望の症状などを伺つてもようしいですか？』』

『その……』

『……』

『……ジョセイキが、あるので、診てほしいんです』

3日後の金曜日。
5限を早退した足で、地下鉄の駅に向かつた。病院へは南へたつた一駅。最寄りのムーアゲート駅から病院まで、どれだけのんびり歩いても10分もかからない。

セント・バーソロミュー病院を選んだのは、僕のかかりつけの